

CASBEE-建築(新築)2014年版
 (明治京都工場4期増築工事)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質			0.32			2.9
Q1 室内環境						2.7
1 音環境		3.0	0.15			3.0
1.1 騒音		3.0	0.40			
1.2 遮音		4.2	0.40			
1 開口部遮音性能	サッシの遮音等級(T-2)を採用している。	5.0	0.60			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		1.0	0.20			
2 温熱環境		2.8	0.35			2.8
2.1 室温制御		3.5	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
2 外皮性能	外壁は断熱サンドイッチパネルを採用している。	5.0	0.25			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御		1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		2.3	0.25			2.3
3.1 昼光利用		2.2	0.30			
1 昼光率		1.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備	会議室にトップライトを採用	4.0	0.40			
3.2 グレア対策		2.0	0.30			
1 昼光制御		2.0	1.00			
3.3 照度		2.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25			
4 空気質環境		3.0	0.25			3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50			
1 化学汚染物質		3.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1 換気量		3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50			
2 喫煙の制御	全館禁煙としている。	5.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.2
1 機能性		2.7	0.40			2.7
1.1 機能性・使いやすさ		2.6	0.40			
1 広さ・収納性		3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30			
1 広さ感・景観		3.0	0.33			
2 リフレッシュスペース	休憩コーナー設置	4.0	0.33			
3 内装計画		1.0	0.33			
1.3 維持管理		3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	内装に汚れにくい物を採用している。	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.50			
1 耐震性		3.0	0.80			
2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			

2.4 信頼性			2.8	0.20			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		2.0	0.20			
3 対応性・更新性			4.2	0.30			4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30			
1	階高のゆとり	階高は4m以上としている。	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	将来の可変性を考慮したプランとしている。	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり		将来対応の為に、ゆとりを設けている。	5.0	0.30			
3.3 設備の更新性			3.0	0.40			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38			2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.6
LR1 エネルギー			-	0.40			4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.04			3.0
2 自然エネルギー利用		トップライトの設置	4.0	0.12			4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.44 住宅(専有部) 0.83	5.0	0.60			5.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		エネルギー利用効率化設備を採用	5.0	1.00			
集合住宅の評価(3c)							
4 効率的運用			3.0	0.24			3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00			
4.1 モニタリング			3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			3.0	0.50			
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング							
4.2 運用管理体制							
LR2 資源消費			-	0.30			3.1
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1 節水		節水型便器を使用している。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60			3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		解体時の仕上げ及び躯体の分離化	5.0	0.22			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20			3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤、シール材等の有害物質を含まない材料を選定	5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70			
1 消火剤			-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			2.0	0.50			
3 冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮		省エネ計算に伴うCO2排出削減	4.4	0.33			4.4
2 地域環境への配慮			2.7	0.33			2.7
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		駐車場、駐輪場の確保	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制		工場運用における廃棄物の分別及び抑制	5.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33			2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1 騒音			3.0	0.33			
2 振動			3.0	0.33			
3 悪臭			3.0	0.33			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			2.3	0.40			
1 風害の抑制			2.0	0.70			
2 砂塵の抑制							
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			1.6	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうちがに漏れる光への対策			1.0	0.70			
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			